

須佐地域にまつわるストーリー

益田氏と須佐について

萩藩永代家老として毛利氏を支え、「萩の土塀は須佐(切)で持つ」といわれた益田氏

益田氏は本姓を藤原氏といい、石見国(現島根県西部)を本拠としていた平安時代から勢力を持つ武士団でした。その後、周防国(現山口県中央部・東部)の山口を本拠とする有力な守護大名・大内氏と結んで、戦いに功を挙げ、現在の益田市域の支配をほぼ確立しました。天文20年(1551)、西国一の大名・大内義隆が陶氏の謀反によって自害しました。ところがその後、陶氏が毛利元就に敗れたため、益田氏は大内氏、毛利氏どちらに付くか選択を迫られ、弘治3年(1557)生き残りを賭け毛利氏を選びました。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いで西軍毛利氏は敗れ、中国地方8カ国から周防・長門2カ国(現山口県)に領地を大きく削減されました。このとき益田氏は、家康から大名になると誘われましたが、それを断り、毛利氏の萩移転に伴い先祖代々の本拠・益田を離れ、一万二千石余を与えられて須佐を本拠としました。元祥はその後、ひっ迫していた萩藩の財政再建にも腕をふるい、四千貫もの借銀を完済した上、納戸銀千三百貫目や金六千両まで蓄え、藩主から大きな信頼を得ました。そうした功績をあげた益田氏は、萩藩永代家老となりました。

その後も益田氏は、幕末まで代々藩の要職を務め、藩主を支えるかけがえのない位置にあり続けました。このことから、「萩の土塀は須佐(切)で持つ」といわれました。

※納戸銀…藩の貯蔵金的一种
※切…壁土に混ぜて、ひび割れを防ぐための短く切った藁など

幕末を支えた須佐の志士たち

益田親施は天保4年(1833)に生まれ、萩藩校明倫館に学び、吉田松陰の兵学門下生となりました。嘉永6年(1853)黒船が浦賀に来航すると、幕府から萩藩に相模国(神奈川県)の警備が命じられました。有能だった親施はその警備を任されるなど藩の要職につき、藩主・毛利敬親を補佐していきました。

やがて諸藩の志士らに尊王攘夷の気運が高まりましたが、文久3年(1863)京都で8月18日の政変が起き、尊王攘夷派のリーダーだった長州藩と7人の公卿(七卿)が京都から追放されました。親施らは、七卿を護りながら、長州へ帰着します。その後、朝廷に無実の罪を訴えるべきという声が高まっていき、元治元年(1864)家老の親施と福原越後、国司信濃らは諸隊を率いて上京し、朝廷に嘆願を重ねますが、逆に討伐を宣告され、御所の門(禁門)へ突入しました。長州藩は薩摩藩・会津藩などに敗退し、禁門の変の責任を負って親施ら三家老が切腹しました。

禁門の変の後、藩内は改革派と保守派に分かれて激しく対立しました。益田氏家臣の中でも対立は起き、切腹前に幽閉された親施を助け出そうと、大谷樸助は心光寺に集まった36人と回天軍を組織しますが、保守派に捕えられ、慶応元年(1865)、浄蓮寺で自刃しました。

長州藩は慶応2年(1866)、幕府軍との戦いへ突入しました。この戦いは、4つの国境で行われたことから四境戦争ともいい、須佐の志士たちが、主に活躍したのが石州口の戦いで、長州軍の勝利で幕を下ろしました。この戦いで激戦地となった益田は、かつての本拠地で、禁門の変の責任を負って自刃した領主・益田親施の無念を晴らしたい思いが、幕府軍と戦う須佐兵を一層の奮戦へ駆り立てたのかもしれない。

須佐育英館

益田家27代元道が、享保年間(1716~1735)に、子弟教育のため藩校明倫館にない設けた郷校です。幕末には、吉田松陰の松下村塾や萩明倫館と行き来が盛んで、久坂玄瑞や伊藤博文、品川弥二郎、山田顕義など幕末の志士たちも交換塾生としてここで学び、逆に大谷樸助ら7人の須佐の志士も松下村塾で学びました。

今でも古地図で歩ける須佐のまち



須佐のまちは、益田家の本拠地として栄え、山に囲まれ、碁盤の目のように仕切られた土地に、益田家中の屋敷や神社・寺院などが建ち並んでいました。町の中央を通る石州街道の西と南には惣門が設けられ、町を守る体制がとられていました。江戸後期に作成された須佐市中細見図では、当時の町割の様子を見ることが出来ます。

- 1 益田館(御田屋)
- 2 育英館跡
- 3 心光寺
- 4 紹孝寺
- 5 清水益田邸跡
- 6 大蘆寺
- 7 松崎八幡宮
- 8 浄蓮寺

須佐市中細見図 須佐歴史民俗資料館「みこと館」蔵

施設のご案内

萩市須佐 歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」

幕末の礎となった須佐の歴史と文化が学べる資料館です。萩藩永代家老「益田家」が歩んだ歴史の数々。館内には益田家に関する資料や須佐唐津焼、幕末志士の資料などの歴史的遺産が保存、展示されています。
住所: 萩市須佐大字須佐4441-10 電話: 08387-6-3916 時間: 9:00~16:30
入館料: 大人310(200)円、子供150(100)円 ※()は団体料金
定休日: 月曜日および祝祭日の場合は翌日、12月29日~1月3日



須佐湾遊覧船

須佐ホルンフェルスや雄大な屏風岩、神秘的な海食洞など…。イカ釣り漁船や遊覧船で周遊します。
運行期間: GW~10月末 運行時間: 10:00~15:00
定時運航: GWおよび夏休みの土日・祝日
予約運航: 大人5名以上の予約により運航
乗船料金: 大人1800円、小学生以下900円(3歳未満無料)
発着場: 須佐漁港(JR須佐駅前から海側へ200m)
予約・問合せ: 08387-6-2219 (須佐おもてなし協会)



つわぶきの館

須佐産ケンサキイカの一晩干しや沖漬けなど、特産品を販売しているお店。須佐ホルンフェルスの遊歩道へは、こちらの駐車場(無料)が便利です。展望スペース有。
住所: 萩市大字須佐7905-1 電話: 08387-6-2266
時間: 3月~10月/9:00~17:00、11月~2月/9:30~16:30
定休日: 11月~2月は毎週木曜日休館(祝祭日の場合は前日休み)、12月29日~1月3日
*12月28日は、午前中のみ営業



る~らる SHOP315

地元の主婦が作る弥富こんにやくは味も歯ごたえも最高。漬物や旬の野菜、焼き饅頭(日曜日のみ)など田舎の味がいっぱい。こんにやく作り体験も可能(要予約)です。
住所: 萩市大字弥富814-1 電話: 08387-8-2315
時間: 9:00~17:00 定休日: 毎週火曜日



ふれあいステーション須佐

JR須佐駅と一体となった交流直売施設。地域の特産品や四季折々の農林水産物などを販売しているほか、周辺には須佐男命いかのお食事処もあり、観光案内拠点ともなっています。
住所: 萩市大字須佐429-4 TEL: 08387-6-3380
時間: 8:00~17:00 定休日: 12月30日~1月3日、12月29日は午後3時まで閉館



須佐の食 須佐男命いか

イカの中では最高級品。須佐でとれるケンサキイカは須佐の男命にちなんで「須佐男命いか」と名付けられています。
◆須佐男命いか直売市:
7月第一日曜日から9月最終日曜日までの土日
※非開催日あり



須佐の季節暦

春	夏	秋	冬
<ul style="list-style-type: none"> 須佐焼ふれあい祭り(5月3・4日) エコキャン祭り(5月6日) 須佐湾遊覧船運航(GW~10月末) 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区盆踊り大会(8月) 須佐湾大花火大会(7月28日) 須佐男命いか祭り(7月27日) 弁天祭(7月27・28日) 祇園祭(7月25・26日) 須佐男命いか直売市 	<ul style="list-style-type: none"> 赤米フェスタ(11月中旬) そばの花まつり(10月第一日曜) 幕末体験「育英塾」(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 須佐特産「暮の市」(12月28日)

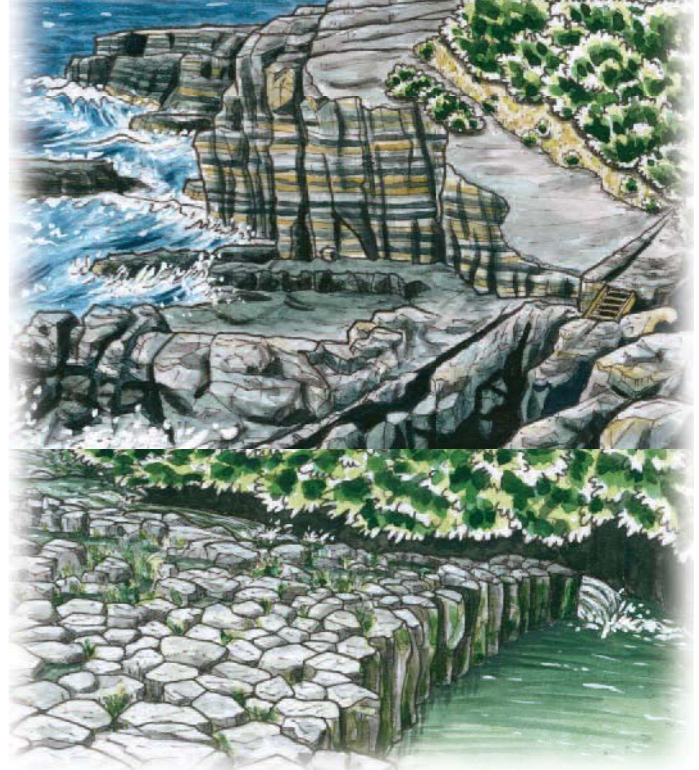
H28.3 現在

編集発行 萩まちじゅう博物館推進委員会須佐部会
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業) 文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

萩まちあるきマップ

須佐おたからマップ



須佐は、地質の宝庫とも言われ、約1650万年前日本列島が定着して最初に堆積した須佐層群や、それを貫こうとしたマグマ(高山斑れい岩)の作用を受けた高山や須佐ホルンフェルス、また、阿武火山群の伊良尾火山から流れ出した溶岩流でできた畳ヶ淵や猿屋の滝など、自然の造形美が地域内に多数あります。

また、萩藩が幕末まで支えた永代家老益田氏の本拠地であった須佐は、碁盤の目状の町割りに、今も益田館をはじめ笠松神社、育英館跡、松崎八幡宮、大蘆寺などの史跡が残り、当時の様子を物語っています。また、明治以降の近代日本の経済・産業の発展に尽力した、久原房之助や手塚猛昌などの偉人たちのゆかりの地でもあります。

自然・歴史・文化のまちを散策してみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩データベースでチェック!! machihaku.city.hagi.lg.jp/db/

須佐おたからマップ

- 自然
- 伝説
- 産業
- 歴史文化
- ★ パワースポット

須佐の地名の由来

ヤマタノオロチ退治で有名な須佐之男命が出雲の国から大津(新羅国)・朝鮮半島)に渡る際に高山の峰に立ち航路を定めたとされ、須佐の地名もこの故事に由来しているといわれています。

中国古代の神の一人として知られる黄帝は航海・造船の神としてあがめられており日本の神社に祀られていたのは全国的にも珍しい

高山は北前船の船乗りから航海の目印とされ、海上安全の山として信仰された。黄帝社に奉納された絵馬にも描かれている

高山山頂の岩石(斑れい岩)は、磁鉄鉱の成分が多いため、磁性が強く磁石石と呼ばれる国の天然記念物に指定

江戸中期、傳船が来航し、鎖国令により追いやられたり、自らの火を放ち、後にはたたりかたまり、碑をたてて死者を祀った

須佐湾フィッシングパーク 須佐之男命の故郷に由来する赤米を栽培

八相権現社 弘法大師が肥州熊野から勧誘し、霊神として祀る

鏡山神社(浄蔵貴所) 嵯峨天皇の御孫である浄蔵がこの地に留まり、といわれており眠禰に靈効があるという

久原波止場 須佐湾の須佐大橋

久原房之助が、巨費を投じて、父庄三郎の名で築造し、明治42年(1909)完成

おすすめトレイル

- 11 須佐歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」
- 9 益田家墓所
- 13 笠松神社
- 14 育英館跡
- 15 心光寺
- 12 三蔭山神社
- 10 手塚猛昌顕彰碑
- 7 久原波止場

幕末、明治維新と日本の近代化を支えた須佐 幕末に活躍した益田親施をはじめ須佐の志士たちが明治維新後、日本の近代化を支えた須佐の偉人たちにまつわる場所を巡ります。

信仰パワースポット巡り

- 5 高山
- 2 行者様
- 3 黄帝社
- 6 八相権現社
- 8 鏡山神社(浄蔵貴所)
- 16 松崎八幡宮(須佐神社)

高山は神山とも言われ、霊山として太古の昔より崇められました。今も御利益を求め登頂参拝する人がいます。須佐の各所には高山に由来をもつパワースポットが多数あります。

須佐唐津煉瓦は、藩政時代から、須佐の産物を支え、その製品は、北前船を利用して北陸から北海道まで販売されていた

- 1 高山磁石
- 4 須佐ホルンフェルス
- 18 道永の海
- 19 量ヶ淵
- 17 イラオ火山灰層観察施設

伊良尾火山から流れ出した溶岩が、高さ50mの厚い柱状節理をつくったもので幅約300mに渡って見られる

海中に泥と砂がたまってできた堆積岩に貫入したマグマが周辺に変成作用を及ぼし、須佐ホルンフェルスが生じました。また、伊良尾火山から流れた溶岩は、六角形の柱状節理を有する。須佐のさまざまな地質がみられる場所を巡って地球がくれたメッセージを読み解いてみませんか。



久原房之助

久原家は代々、須佐の浦庄屋をつとめ、幕末期に萩へ移住しました。房之助は明治2年(1869)秋に生まれ、明治22年慶応義塾卒業後、明治38年日立鉱山を創設、日本屈指の銅山に育て、昭和3年(1928)には衆議院議員に当選、逓信大臣に就任しました。巨額を投じて建設した久原波止場は、熊野鉱山(鈴野川)の鉱石搬出等に大いに貢献し、北浦屈指の良港であった須佐港はいっそう繁栄しました。このほか、久原奨学金を設けて須佐子弟の進学を奨励したのをはじめ、多額の寄付を行い須佐の経済・文化・教育面の発展に寄与、昭和34年旧須佐町から名譽町民の称号が贈られました。



須佐ホルンフェルス

須佐ホルンフェルスは、国の名勝及び天然記念物「須佐湾」(昭和3年指定)の一角にあります。その成り立ちは、アジア大陸から日本列島が分かれ、約1650万年前日本海に最初に堆積した泥や砂の層(須佐層群)が広がり、そこにマグマが下から突き入り、噴火せずに留まったことに始まります。このマグマの熱によって、須佐層群の岩石は熱変成作用を受け、ホルンフェルス(ドイツ語で「角石」を意味し、鋭く角のように割れる岩石)という岩石になり、千量敷や量岩まで影響が及びました。須佐ホルンフェルスでは、熱源のマグマが冷え固まった斑れい岩から受ける前の元の岩石まで一連の変化した岩石が見られます。

阿武野(福育)にまつがる伊良尾火山が噴出した火山灰層の観察施設で、素晴らしい噴火をした伊良尾火山の様子が見られる

伊良尾火山が貯えた溶岩が、三段70mの薄さとなり落下しており、老木の間に飛沫を飛ばす景観は、見応えがある

星の城、漆城の跡、多くの兵や馬が討死した地といわれ、おびただしい戦死者を埋葬し、戦死者の鼻を集め、華つたので、「一万のばな」といわれる

おすすめトレイル

- 10 手塚猛昌顕彰碑
- 12 三蔭山神社
- 13 益田家墓所
- 11 須佐歴史民俗資料館「みこと館」・「益田館」
- 14 育英館跡
- 15 心光寺
- 16 松崎八幡宮

幕末、明治維新と日本の近代化を支えた須佐 幕末に活躍した益田親施をはじめ須佐の志士たちが明治維新後、日本の近代化を支えた須佐の偉人たちにまつわる場所を巡ります。

